



西諫早としょかんだより【No.323】

■ 2024年4月号 ■

スマートフォン用



〒854-0074 諫早市山川町 1-3
諫早市立西諫早図書館

HP: <https://www.libisahaya.nagasaki.jp/>
TEL: 0957(26)8607 FAX: 0957(26)8250

図書館カレンダー (4月)

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

月曜日：定例休館日 / 第3木曜日：整理休館日

ゴールデンウィークの開館予定

5月	1(水)	2(木)	3(金)	4(土)	5(日)	6(月)
諫早	○	○	○	○	○	×
西諫早	○	○	○	○	○	×
たらみ	○	○	○	○	○	×
森山	○	○	×	○	○	○
図書室	○	○	×	○	○	×

令和6年度、諫早図書館は120年！西諫早図書館は30年！たらみ図書館は20年

4月、令和6年度が始まります。今年度は図書館にとって記念する年度です。

諫早図書館は、明治37年(1904年)、「地方にこそ図書館が必要」として漢詩界中興の祖であり諫早出身の野口寧斎氏が私立「諫早文庫」として創設してから120年。

西諫早図書館は、令和7年3月に現在の地に図書館を開館して30年。

たらみ図書館は、今年11月に開館20年を迎えます。

長い時を経て、現在、諫早市は4つの図書館(諫早・西諫早・たらみ・森山)、

3つの図書室(高来・小長井・飯盛)を有し、「としょかんのまち 諫早」とうたわれるようになりました。

特に西諫早図書館は、長年、近隣のみなさまに支えられ、成長してまいりました。これからもみなさまの「知」や「情報」の拠点として、そして「交流の場」として利用していただければと思います。30年を迎える今年度もどうぞよろしくお願いいたします！



新着図書

この他にもたくさんあります！ 貸出中の本には予約ができます。

『磯田道史と日本史を語ろう』	磯田道史／著	文藝春秋
『戦後政治と温泉』	原武史／著	中央公論新社
『きみのお金は誰のため』	田内学／著	東洋経済新報社
『コロナと認知症』	長尾和宏／著	ブックマン社
『アロマテラピー大全』	石田淳子／著	成美堂出版
『包丁・砥石の選び方使い方育て方』	日本包丁研ぎ協会／監修 柴田書店／編	柴田書店
『世界一わかりやすい動画制作の教科書』	小島真也／著	技術評論社
『冬に子供が生まれる』	佐藤正午／著	小学館
『成瀬は天下を取りに行く』	宮島未奈／著	新潮社
『夜露がたり』	砂原浩太郎／著	新潮社

今月の展示

※本屋大賞特集 今年ほどの作品が受賞するかな？

本屋大賞でノミネートされた作家の作品を集めました！
受賞作の発表は、4月10日（水）です。

2024年ノミネート作品はこちら



- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 『黄色い家』 | 川上 未映子 / 中央公論新社 |
| 『君が手にするはずだった黄金について』 | 小川 哲 / 著 / 新潮社 |
| 『水車小屋のネネ』 | 津村 記久子 / 毎日新聞出版 |
| 『スピノザの診察室』 | 夏川 草介 / 水鈴社 |
| 『存在のすべてを』 | 塩田 武士 / 朝日新聞出版 |
| 『成瀬は天下を取りに行く』 | 宮島 未奈 / 新潮社 |
| 『放課後ミステリクラブ 1
金魚の泳ぐプール事件』 | 知念 実希人 / ライツ社 |
| 『星を編む』 | 凧良 ゆう / 講談社 |
| 『リカバリー・カバヒコ』 | 青山 美智子 / 光文社 |
| 『レーエンデ国物語』 | 多崎 礼 / 講談社 |

※新書特集 この春、新書を読んで新たな学びを！

専門知識を手軽に学ぶことができる新書。テーマも哲学・歴史・科学・心理・社会問題などさまざまなジャンルを網羅。何かを学び始めるきっかけに手にとってみませんか？

実用書活用講座「くらしにとりいれる天然酵母」を開催

3月10日（日）にトミガワベーカリーの鈴木夏子さんをお招きし、天然酵母や天然酵母パンの食べ方について教えていただきました。天然酵母パンや地元野菜のサラダの試食も有り、大満足！鈴木先生のやさしい語り口に癒されながら、良い学びのひとつとなりました。



図書館員おすすめの一冊

『いま二センチ 永田 紅歌集』

永田 紅 / 著 砂子屋書房

著者は、両親が有名な歌人、永田和宏、河野裕子夫妻で、短歌が身近にある家庭で育ちました。また、京都大学で生化学を研究する研究者という一面もあります。

本書には、2012年から2015年までの4年間、36歳から40歳にかけて詠んだ短歌488首が収めてあり、本書で昨年、優れた歌人に贈られる第28回若山牧水賞を受賞しました。

子育てや仕事、社会問題まで幅広い内容を詠んだ歌は、2010年に母を亡くし、2013年に妊娠、出産、そして職場復帰する激動の時期の思いが伝わります。

兄の淳さんも歌人。家族四人、それぞれの歌集を読んでもみるのもお勧めです。
(D)